

◎必修科目 外科（5科）

外科の各診療科は領域を臓器別に分担して診療している。専門分野により診療内容が異なるが、いずれの診療科においても日常診療で頻りに遭遇する症状や疾患の治療を経験可能で、プライマリ・ケアに必要な知識、技術、態度を修得できる。

必修外科として選択できる診療科 → 呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科・移植外科、腎臓外科、脳神経外科

必修の内科、外科研修における 共通 行動目標

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために、

- 1) 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。
- 2) 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる。
- 3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。

医療チームの構成員としての役割を理解し、他のメンバーと協調するために、

- 1) 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- 2) 上級及び同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
- 3) 同僚及び後輩へ教育的配慮ができる。
- 4) 患者の転入・転出に当たり、情報を交換できる。

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付けるために、

- 1) 臨床上的の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる。
- 2) 臨床研究の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。

自己管理能力を身に付け、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める。

患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画するために、

- 1) 患者確認の正しい手順を実践できる。
- 2) インシデント報告の意義を理解し、実践できる。
- 3) 院内感染対策（Standard Precautions を含む。）を理解し、手指消毒を実施できる。

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行うために、

- 1) 症例呈示と討論ができる。
- 2) 臨床症例に関するカンファランスや学術集会に参加する。

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために、

- 1) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。
- 2) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。

経験目標

- 1) コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。
- 2) 診断・治療に必要な情報を得るために、患者の病歴の聴取と記録ができる。
- 3) 以下の身体所見が取れ、診療記録に記載できる。

バイタルサイン、頭頸部、胸部、腹部、骨・関節・筋肉系、神経学的所見

A 経験すべき診察法・検査・手技

B 経験すべき症状・病態・疾患については「臨床研修の到達目標」を参照

必修外科の研修

基本的な外科的手技を経験すると共に、外科的治療の適応と周術期管理の基本について学ぶ。

到達目標

- ①清潔操作の概念を理解し、ガウンテクニックを含めた清潔操作を実施できる。
- ②基本的な手術器具の名称とその用途を説明できる。
- ③皮膚（創部）消毒・縫合・結紮・切開・抜糸といった基本的な外科手技を実施できる。
- ④外科的治療の適応と合併症を説明できる。
- ⑤朱出の危険因子を列挙し、その対応の基本を説明できる。
- ⑥主な術後合併症を列挙し、その予防の基本を説明できる。
- ⑦手術に関するインフォームド・コンセントの注意点を列挙できる。
- ⑧周術期管理におけるバルタイサインの意義とモニターの方法を説明できる。
- ⑨術後ドレーンの意義とその管理方法について説明できる。
- ⑩周術期における主な薬剤の服薬管理（継続、中止）の必要性とそれに伴うリスクの基本を説明できる。
- ⑪周術期における輸液・輸血の基本を説明できる。
- ⑫術後疼痛管理の基本を説明できる。

研修方略

必修外科として呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科・移植外科、腎臓外科、脳神経外科の5科から1科を選んで4週間研修する。

上級医と共に診療チームの一員として診療にあたり、外科病棟において研修を実施し、指導医と診療方針のディスカッションを通して外科的治療の適応・周術期管理について知識・技能を習得する。外科的手技については、病棟診療および手術室での外科手術においてフィードバックを行いながら知識・技能を習得する。